身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

NPO 法人すいた市民環境会議　　２０１６年６月　第１０５号

吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議　会長/小田忠文　ホームページhttp://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm　設立/1997年3月15日
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目8-28-106　中村小夜子　TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491　編集/会報委員会
年会費/正会員（個人･団体）1,000円、正会員（法人）10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円　郵便振込口座番号/00980-3-28845

目　次

１．表紙
２．会長コラムと表紙の絵説明
３．自然エネルギーすいた（SES）設立
４．生活環境委員会ニュース
　　みどりのカーテンと家庭菜園ポタジュ
６．生きもの委員会ニュース
　　吹田の原っぱ･希少種の今
８．「吹田の郷」より読み解く当会の歩み(6)
９．私の本棚より　お勧めの1冊･
　　世界でもっとも貧しい大統領　ホセ･ムヒカ
10．変わりゆく吹田のまち(13)春日＆円山町
　　つれづれに～あこがれのナンキンハゼ
11．吹田市立博物館は今「田園都市“千里山”」＆
　　夏季展「まもる自然、つくる自然」、オッペンばら園
12．事務局より　総会･講演のお知らせ
　　コミテ亭居酒屋、アジェンダ21総会･講演案内

コラム

春夏秋冬

会長　小田忠文

吹田市内各地でこの春、とくにニュータウンでナルトサワギクとオオキンケイギクが目立っています。と言ってもピンとこない人も多いかと思います。これらは特定外来生物に指定された、いわば“お尋ね者”の植物で、先住の植物を駆逐して彼らだけの世界を作っていくもので、魚で言えばブラックバスやブルーギルに相当します。▲2009年秋に紫金山公園で最初のナルトサワギクを発見してから「このままではよろしくない」と思った吹田の自然に関心のある人たちが、その後も自主的に駆除していました。しかしそれらの植物の生息範囲が広がってきたので昨年、“特定外来植物から吹田の自然を守る会”という会をたちあげて、広報を兼ねながら組織的に駆除作業を始めました。▲しかし、この春になって高野台、佐竹台などのニュータウンや名神高速道路料金所周辺ではオオキンケイギクが黄色い広大なお花畑を作るほど繁殖してきました。もはや一部のボランティアで対処できる量や範囲を超えています。▲吹田市の環境基本計画やみどりの基本計画には生物多様性が書かれており、3 月の市長の施政方針にも「生物多様性の保全を進める必要があるため云々」とあります。さらに市報 5 月号からは生物多様性コラム（5 月号 7 頁）が始まっています。市内で多様な生き物が生息できる平穏な環境を維持するためにはこの“お尋ね者”は駆除しなくてはなりません。吹田市行政として何らかの施策がほしいところです。▲知らないまま、これらの植物を花壇に植えている場所もあります。当面は市報やホームページで市民に“お尋ね者”の顔と名前を公表して、駆除すべき植物であることを広報してはどうでしょうか。多くの市民が気づき、行動できたらいいなと思います。▲広報のほか必要なら環境省への届け出など事務手続きは行政がして、自治会やマンション管理組合も参加して、市民ぐるみで特定外来生物を駆除するといったことになれば行政、NPO、地縁組織の協働事業にもなりますし、生物多様性地域戦略の先駆事例にもなるのではないでしょうか。

＜表紙の絵＞　　吹田の生きものシリーズ（５）

ヒメボタル

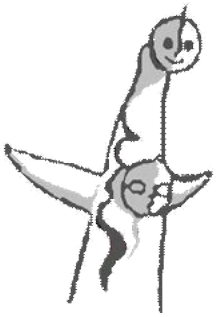
ヒメボタルは、コウチュウ目ホタル科の昆虫で、体長は６～９ミリ。蛍光は「閃光」で鋭く光り、北海道を除く各地に生息するが、メスは「後翅」（うしろ翅）が退化して飛べず、他の地域との交流が困難と思われることから、棲息地ごとの固有性を保っていると考えられる。

吹田の発光時期は５月から６月初旬で、箕面市の平野部は吹田と同じても、山中の勝尾寺付近では７月初旬で、同一地域でも発光時期が異なり、東北などでは８月頃に発光すると言う。また、吹田の発光時間は日没後１時間半経った頃から始まる「宵型」であるが、２４時頃から発光を始める「深夜型」や明けがた近くになって発光が盛んになる所など、発光時間についても地域毎の違いがある。更に、発光の意味についても諸説あるが、交尾のための雌雄の識別であることと、音に反応して発光することなどは、確認できるものの「警告」などの諸説については定かでない。

「ホタル」は発光という機能を持ち夜間に行動することからか、甲虫としては目玉が大きく、「頭部」は殆ど目玉が占めているように見えるが、交配のため相手を求めて飛ぶ「ゲンジボタル」などの目玉は雌雄の大きさに差異はなく、「後翅」がなくて飛べず「オス」を探すことのできない「ヒメボタル」の「メス」の目玉は「オス」に比べて小さい。

DNA の解析の結果、全国の「ヒメボタル」を５つグループに分けることができ,近畿地方には３つのグループが在り、吹田は、川西・池田・箕面・高槻と DNA で繋がるものの和田山・姫路などとは別グループであることが判明した。

また、平野部に生息する成虫の体長は７～９ミリ、山地に生息するものは６～７ミリで、大型と小型に分けることができることや「森のホタル」と呼ばれ、幼虫期を雑木林などで多様な土中生物を捕食して成長していることなどが明らかになり、「ヒメボタル」が生息する自然環境は多様な自然であることの「証」であり、吹田市もヒメボタルの棲息地として「千里第４緑地」と「ヒメボタル」を天然記念物に指定するに至った。　　（表紙の絵と文：生きもの委員会　塩田 敏治）



「自然エネルギーすいた」を設立しました！

理事　喜田久美子

本会は、2016 年 4 月 1 日、市民共同発電所を作るための活動を開始し、プロジェクトチーム「自然エネルギーすいた」を設立しました。

会の設立趣意書は右記のとおりです。

2 月の設立準備会に集まったメンバーを中心として、月 2 回程度の会合を重ね、現在、吹田市内の公的施設に太陽光発電装置を設置しようと活動しています。

現在、設備の規模・概要などが明らかになり、設置施設との話し合いを進めようとしています。設置規模は約 4kW。設置費用は広報宣伝費などもふくめ総額230 万円あまりと見込んでいます。大阪府に補助金（100 万円）を申請する予定で、残りの 130 万円は、会員のほか広く市民に呼び掛けて、寄付などをお願いすることになります。いままで会員の皆さまから市民共同発電事業のためにいただいた寄付金もここで活かしたいと考えています。これらのことは、6 月の総会での承認を得てのことになりますが、具体的に決まり次第お知らせする予定です。

2006 年 2 月､私たちは古江台中学校への市民共同発電所設置（古中ソーラー）に取り組みました。あれから 10 年、市民共同発電所設立への熱い思いを持ち続けてきました。フクシマの原発事故、固定価格買取制度の施行など社会情勢の変化があり、今また、新たな決意をもって取り組んでいくことにしたのです。小さな灯ではありますが、これも市民の一灯。未来世代のために、今を生きるものの責任として、どうぞ、この取り組みにさまざまなかたちでご参加ください。

自然エネルギーすいた　設立趣意書

私たちは、いま、生命や健康のみならず、暮らしや故郷をも奪うフクシマの原子力発電所事故の脅威を目のあたりにしています。事故の危険性ばかりか、原子力発電所はその廃炉と廃棄物処理に膨大な費用と時間が必要で、その安全性すら確立されていません。

私たちや未来の世代が生きていくためには、これ以上負の遺産を増やしてはなりません。私たちは、未来の世代から生命あふれるこの星を預かっているにすぎません。私たちには未来への責任があるのです。原発に依存しない社会を作りたいと思います。

また、地球温暖化防止のためにも、化石燃料に頼らないより安全でクリーンなエネルギーを作り出す必要があります。

そのために、このまちで、市民の力によって、より多くの再生可能な自然エネルギーを生み出したいと考え、市民共同発電所設立に向けて活動を開始します。

この活動はきっと多くの人たちの共感を得ることができるはずです。また、得なければなりません。市民同士のつながりを活発にし、このまちをもっといいまちに、ずっと住み続けたいまちにしたいのです。そして、希望と誇りを持ってこのまちを次世代に引き継いでいきます。

ここに、市民が自ら学び、考え、啓発しあい、行動する会「自然エネルギーすいた」の設立を宣言します。

2016 年 4 月 1 日

呼びかけ人

特定非営利活動法人　すいた市民環境会議

会　長　小田　忠文

同理事　プロジェクトリーダー　喜田久美子

井上　衣子

小田　信子

金指　　弘

塩田　敏治

田中　隆三

長岡　弘隆

中村小夜子

平　　軍二

松岡　要三

安田　直子

米田　廣光

会員　寺西 信昭（アジェンダ 21 すいた自然部会）

みどりのカーテンと家庭菜園ポタジェ

4 月 16 日アジェンダ 21 すいた主催のみどりのカーテン講座で講師を務める寺西さん　（生活環境委員会　提供）

2007 年の春、アジェンダ 21 すいた自然部会の活動を通じて、“みどりのカーテン”に挑戦しました。それまで、草花を育てるのは好きだったのですが、ゴーヤーなど野菜を育てたことはありませんでした。みどりのカーテン（ゴーヤー）と出会い、食べられる植物の魅力に、急速に引きこまれていきました。ゴーヤーのカーテンで日差しを遮るというのが、みどりのカーテンの第一の目的なのですが、第一の目的以上に印象に残ったことは、“自分が育てたゴーヤーを自分で食べたこと”だったのです。

美しい色とりどりの花は、育てたり鑑賞したりと、とても楽しいのですが、ゴーヤーをはじめ、野菜やハーブなど食べたり利用できる植物というのは、また違った魅力があると知りました。

ゴーヤーを通じて食べられる植物を知り、その秋に、リーフレタスやブロッコリー、チコリやオレガノなど野菜やハーブを、自宅の車一台分のちょっとした隙間で、育て始めたのです。

そして、今年 2016 年。

なんとなく始めた、食べられる植物を集めたマイガーデン。なんと今では、茨木に１反ほどの農地を借り、数十種類の野菜やハーブを育てるマイファームへと拡大していきました。

その魅力・原動力は、いうまでもなく“収穫”だったのです。自分で育てた野菜を収穫する。そして自分で食べる。単純ですが、充実感を味わえました。

また、育てて分かったのが、野菜やハーブの花も綺麗だという事。アオイ科のオクラの花、ブロッコリーやハクサイの花も美しいし、スイートピーに似たエンドウの花も野性味があり中々のもの。そして恥ずかしながら、トマトやナスに花が咲いて実っていく様子もよく知りませんでしたし、イチゴの旬が５～６月だという事さえも、よくわかっていなかったのです。

家族で子供たちと一緒にそれらを育て、共に学び、おいしくいただきながら、ガーデンからファームへと成長していったのです。

しかし、自宅から離れ郊外の畑を借りて家庭菜園を行うことは、楽しみが多い反面、畑に行く時間の問題、水やりや自然災害等、色々な苦労も襲ってくるのでした。もっと手軽に、誰でもおしゃれに楽しめる家庭菜園はないかと考えていたとき、出会った言葉が“ポタジェ”でした。

Potager

フランスでは、野菜やハーブ、花を混植して実用と鑑賞の両方を楽しむ庭をポタジェ（Potager）と呼ぶそうです。野菜だけをつくる“家庭菜園”と違い、野菜や花、ハーブや果樹を組み合わせた“混植菜園”とでもいえるのでしょうか。見た目も美しく、収穫もできる実用的な庭なのです。これなら広い畑に行かなくても、お家のちょっとした空きスペースや、マンションのベランダなどでも気楽にチャレンジできる、と思ったのです。

僕にとって、まだまだ勉強段階のポタジェ。でも自信をもって言えることは、植物を育てること、そして、自然のリズムの中に身を置くことは、奥の深い“いやし”があると思います。それにプラス、胃袋も満たされる食べられる植物の素晴らしさ。

ポタジェをはじめ、キッチンガーデン、サラダガーデンなど、呼び方は色々あると思いますが、あまり規則や内容に縛られないように、自分なりのペースで、美しく食べられる植物を育てる、というスタイルを楽しみたいです。

生活環境委員会の活動

4 月 27 日（水）東佐井寺地区公民館主催でみどりのカーテン講座を実施しました。涼しさとおいしさの一石二鳥。今年も市内にみどりのカーテンがたくさんできるといいいですね。
（スタッフ：富・奥田・小田・喜田・安田）

●これからの活動を紹介します。

7 月 7 日（木）「夏の味方　ゴーヤの創作料理」
東佐井寺地区公民館講座として開催予定です。
ゴーヤ尽くしのランチをご賞味あれ。

8 月 3 日（木）森のクラフト
吹田市立博物館　夏期展示イベントとして開催予定です。ぜひご参加ください。

9 月 20 日（火）エコクッキング
亥の子谷コミュニティセンターでの開催です。

9 月 25 日（日）森のクラフト
ハナミズキホールで開催される生活クラブ生協フェスタに参加します。ちょっと遠いですが遊びに来てください。

生きもの委員会ニュース

吹田の原っぱ・希少種の今

生きもの委員会　平　軍二

１．吹田の原っぱ・希少種観察会

今年は一年を通じて吹田の原っぱの観察会を続けることを目標にした。これまで希少種４種をベースに調査・観察会などを実施してきました。今回は希少種を育む草はらに生育している野草の季節変化を良く見て、知ろうと言うことから企画したものです。

①4/21 希少種の春（すいた市民環境会議主催　参加者 11 名）

ヤマサギソウの芽生えが楽しみな季節、そして２月に観察したロゼットがどのように変化しているかからを見る楽しみもありました。

ところが下見において思いもかけぬ花「フデリンドウ」が咲いていて、当日の参加者にも観察してもらうことができた。フデリンドウは吹田の希少種４種より絶滅レベルは低いものの、全国的に見ると奈良県で絶滅危惧Ⅱ類、京都府では準絶滅危惧種に指定されている希少種である。吹田市内では万博公園で確認されたことがあると記録されているのみである。美しいので愛好家が多く盗掘されやすい花であり、何とかこのまま吹田市に残ってほしいと思っています。

観察会は小雨であったが、青山台住宅地のサトザクラ（八重桜など）が満開で、参加者は野草の花とサクラを楽しんだ。(写真右)

②5/17 希少種の春（SELF 主催　参加者 19 名）

ヤマサギソウ・ウツボグサのつぼみが観察できる季節、ミヤコグサ・ニガナは満開、そしてチガヤの白い穂を観察した。

ｲ）国立循環器病研究センター前の原っぱ　昨年７月に売却されたあと草刈りされずほぼ一年間放置されていた。メリケンカルカヤの枯葉が残っているため褐色で草丈 50 ㎝以上あり、チガヤはメリケンカルカヤに遠慮して小さく、ウツボグサなど花の株は少なかった。

ﾛ）マクドハウス南側の原っぱ　昨年 12 月に再入札で売却された土地、売却前に大阪府による草刈りが実施された。通常通り一年に２回の草刈りで草丈 50 ㎝以下チガヤ草原となっており、チガヤが咲き始め、その間にミヤコグサ・ニガナ、そしてウツボグサが咲き始めていた。

大阪府が民間に売却したｲ)ﾛ)の原っぱは、まだ住宅建設がスタートしておらず歩くことができ、両所の草刈り頻度による原っぱの違いを確認できた。

２．5/16 ヤマサギソウ生育調査（参加者６名）

昨年は４月に調査しヤマサギソウが小さかったので、今年は大きく分かりやすくなってから調査をすることとし、調査日を５月 16 日とした。しかし、ヤマサギソウの生長を上回る周囲の草々の生長があり、ヤマサギソウが他の草に埋もれているような状態にあった。

調査地は最北端の第１区（吹田市下水道部管理地）、その南側第２区（大阪広域水道企業団管理地）

であるが、特に第２区では水道企業団が昨年自衛用フェンスを張り巡らしたため、フェンス内に入ったのは今シーズン初めてであった。昨年秋の草刈りをしなかった所が一部にあったため、草丈が高くヤマサギソウが見つけにくかった。

調査結果(速報値)は昨年より少なくなった(132→86 株)が、実際に株数が減ったことに加え、調査しにくかったこともその一因と思われる。今年度は土地管理の下水道部及び水道企業団に通常通り年２回草刈りを実施としてもらうことにしたい。また来年の調査時期については４月下旬～5 月 GW の頃に設定し、調査精度を上げたいと思っている。

３．ＦＭ千里での広報（毎月第４月曜日 16 時 30 分～17 時ほか）

一昨年 12 月にＦＭ千里・桜井美智子氏との対談 Tea For Two（10 分間Ｘ4 回シリーズ）に出た後、昨年３月からは毎月１回、第４月曜日に北千里にあるサテライトスタジオから「北摂伝言板～地域活動伝え隊～」という 30 分番組に生出演している。日本野鳥の会やすいた市民環境会議の調査・観察会で学んだ自然情報（野鳥・野草・大木など）から、季節にマッチした話題を提供してきたが、一年間継続してきたことで、大くくりのテーマで話すことが少なくなった。最近は少し掘り下げたテーマとし「3/28 タンポポの花」「4/25 イネ科の花」、そして「5/23 ウツボグサ（北千里の野草）」を予定している。

また、1970 年代から 30 年間ＭＢＳラジオ『ごめんやす馬場章夫です』で有名な馬場氏は、現在ＦＭ千里の『馬場章夫のぼらぼら千里』を週１回放送中である。そこで野鳥の話題を取り上げたいとの依頼があり、5/11 午後に３時間ほど、服部緑地で実際に鳥を見ながら馬場氏と歩いた。その時の私の説明をベースに 5/14（土）11:00～14:00 に放送されたが、馬場氏が自分流に消化されていて、分かりやすいバードウォッチング入門講座になっていた。

更に、ＦＭ千里の「ごきげん千里 837　毎週月～金」で火曜日を担当されることになった桜井美智子氏より再度の依頼で、６月７日（火 11:00～11:10）の対談 Tea For Two に声がかかっている。

そんなことで、ＦＭ千里にご縁が続いており、希少種のことなども紹介している。

FM 千里 83.7MH の聴取範囲は千里ニュータウン周辺のみと狭いのですが、FM 千里サイマルラジオ（インターネット放送）でも聴くことができます。http://info-fm.sakura.ne.jp/blog/?page_id=3546

４．4/28 吹田市後藤市長との面談
（生物多様性吹田市戦略作成を）

吹田市に対し、生物多様性地域戦略を作ってほしいことを依頼のため、武田義明先生・小田会長を中心とする生物多様性の会メンバーで、後藤市長と面談した。

吹田市はまだ人口増が見込まれ開発が続いているので、このままでは希少種だけでなく普通種も無くなることが予想されるので、今のうちに基本となる生物多様性吹田市戦略を作っておくべきと提案しました。

後藤市長からは、吹田市は環境に配慮して事業を進めている。地域戦略は環境省のテーマであり吹田市だけでなく近隣諸市と一緒に進めるとのことでした。

私としては、生物多様性を担当される環境部や、吹田の希少種の生育地を管理される土木部・下水道部などと連絡を密にしながら、一歩ずつ前進させたいと思っている。

次回観察会の予定　「**吹田のウツボグサ・ヤマサギソウ**」

ウツボグサが紫色のじゅうたんを敷き詰める頃、緑色の草の中に緑色の花、ヤマサギソウがひっそりと咲いている。

日時：　6月９日(木)9:30～12:00 頃　　**集合場所：**　阪急北千里駅改札口
解散場所：千里北公園・国立循環器病研究センター付近の予定
持ち物：　筆記具、あれば野草図鑑、ルーペ。　　**参加費：**　会員 200 円、非会員 300 円
申込先：　平　軍二（電話 090-6901-1425　　メール g-hira@nifty.com ）

尚、カラー資料を準備するため、必ず電話 or メールでお申し込みください。

会報「吹田の郷」から読み解く　当会の歩み（その6）

会報委員　松岡要三

今号では第 40 号（2005 年 7 月）から第 51 号（2007 年 5 月）まで、当会誕生（1997 年 3 月）の 10 年目を迎える前の充実した 2 年間の活動を紹介します。

注目すべきは他団体との協働や多くの市民を巻き込んだ活動で大きな成果を上げたことです。

前号で紹介した 2004 年 11 月のタウンミーティング**「吹田をソーラータウンに」**を契機に、ことあるごとに啓発活動をおこない、DIOS 北千里商店会、古江台中学校 PTA などと協働して募金を募り、府・市からの補助金を受けて、2006 年 2 月、**古江台中学校に市民共同発電所**を作りました。古中ブラスバンドのファンファーレのもとでの除幕式は感動的でした。その後、市へ寄贈。記名 94 名ほか数百名と 14 団体から約 145 万円の募金を集めました。

2 番目は吹田市立博物館の運営です。「このままでいいだろうか」と 2004 年夏から有志で**「博物館を盛り上げる会」**を結成し、同じ思いの新任の小山修三館長・学芸員と会議を重ね、2006 年の春季特別展には市民委員を公募して企画運営することとし、多くの市民に来場してもらえるものをと**「千里ニュータウン展」**に決めて取り組んだことです。

2006 年 4 月 22 日開幕のこの春季特別展は大成功をおさめ、今後の博物館のあり方に新しい光を当てたと全国からも注目されました。

当会の理事やまちなみ委員が盛り上げ会から参加、春季特別展では公募委員 44 名のうち 12 名が当会会員で他の市民と協働して多くのイベントの企画・運営に参加しました。

3 番目は公募の市民と共に第 2 の散策マップ**「ぶらっと吹田／花と緑、水めぐる散歩道」**の編集に関わったこと(発行は 2006 年道路公園室)、まち歩きの楽しさを多くの市民に体験いただいたこと、さらに吹田歴史文化まちづくり協会主催の**「まち案内人講座」**に当会の 3 名が講師を勤め、当協会の**「吹田まち案内人」**制度設立(2006 年)に多くのまちなみ委員参加したことです。

4 番目は 2006 年 11 月より環境 4 団体共催で**「くわい連続講座」**を 3 回開催、その後**「吹田くわいネットワーク会議」**を立ち上げ、吹田の伝統野菜として栽培の拡大につなげたことです。

各委員会の活動においても他団体との協働事業が多くありました。以下で紹介します。

１．学習研修委員会の活動

2002 年 3 月に始めたジャスコ（現イオン）南千里店との共催バスツアーは、2006 年 4 月に「狭山池博物館と大型児童館ビッグバン」、2007 年 4 月に「舞洲工場と南港野鳥園」の見学会を実施しました。

また、映画「不都合の真実」を会報に取り上げ、上映会を紹介し、地球温暖化防止のための啓発をおこなっています

２．生きもの委員会の活動

2002 年 8 月に始めた野草調査を 2006 年 12 月まで実施しました。2007 年には「吹田の大木・古木調査 10 周年」迎えるので、2006 年 6 月に「10 年後の大木調査プロジェクト」を結成、9 月から予備調査を始め、2007 年 2 月から本調査に入りました。それに合わせ、会報の「表紙の絵」は「吹田の代表的な大木」紹介を「安芸さんの絵」と「平さんの文」で始めました。

３．まちなみ委員会の活動

2005 年 3 月に始めた「いいでしょこのまち　文化施設探訪」は、万博公園の各施設や劇団ひまわり、キャットミュージックカレッジ、関西大学や大阪大学などを訪問し、2 年にわたり 9 回開催しました。

まちなみ委員研修会は豊中の「桜の庄兵衛・奥野家」、御影の「旧乾家住宅」、「池田市まちなみ」、服部緑地の「日本民家集落博物館」などを訪問し、古民家活用の事例を学びました。

お休みしていた「あルック吹田散策会」を 2006 年 9 月から再開、3 巡目の散策会を始め、2007 年 4 月で 29 回を迎えました。

４．生活環境委員会の活動

前述の古中の市民共同発電所事業では中心的役割を果たしました。

その他に、アジェンダ 21 すいたやイオン南千里店などと協働して「環境家計簿」、「エコクッキング」「エコ・クラフト」、「打ち水」、「みどりのカーテン」、「地球温暖化防止タウンミーティング」などの事業をおこないました。

５．会報委員会の活動

2005 年 3 月から始めた連続記事「自然と文化」は第 6 回で終了しました。2005 年 7 月より表紙を一新し、会報委員の蓬田が吹田の素敵な風景をスケッチ絵で紹介、2006 年 11 月まで 9 回連載しました。

６．提案活動など

吹田操車場跡地の活用案を会員から募り、2007 年 1 月に吹田市長へ「22 世紀の夢を買いましょう 吹田 100 年の森構想」を提言。「イギリスのナショナルトラスト」や「知床 100 平方㍍運動」を紹介しながら吹田市が管理するナショナルトラスト方式を提案しました。

以上

＜私の本棚より お勧めの１冊＞

世界でもっとも貧しい大統領 ホセ・ムヒカの言葉

佐藤　美由紀（著）　　会長　小田忠文

「地球サミット」という言葉を聞いたことがありますか？これは 10 年に一度、世界各国のリーダーが地球の未来や環境問題について話し合う国際会議です。はじまりは 1992 年 6 月ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた「リオサミット」にさかのぼります。「気候変動枠組条約」とか「生物多様性条約」さらに「アジェンダ」などといった言葉はこのときから始まったのです。それから 20 年たった 2012 年にふたたび地球会議がリオで開催されました。国名のＡＢＣ順に各国首脳が環境に対する演説をしました。発言が終わると会場から出ていく国が多かったので聴衆が少なくなった会場で最後に演壇に立ったのがＵで始まるウルグアイ大統領ホセ・ムヒカ氏でした。

その８分間の演説が終わると静まりかえっていた聴衆は演壇に立つムヒカ氏に惜しみない拍手を送りました。拍手は当分の間、鳴りやむことがなかったそうです。この日のムヒカ氏のスピーチはその後**“もっとも衝撃的なスピーチ”**と呼ばれるようになりました。

しかし日本のマスコミはどこも報道することはなく、インターネットの検索でもほとんどひっかからない状態でした。そのことにショックを受けたチリ在住の内村明(うちむら あきら)という人がムヒカ氏のスピーチを日本語に翻訳してブログにアップしました。アップ後 4 日間で訪問者は 50 万人以上になったそうです。

この日の演説の中からいくつか挙げてみます。

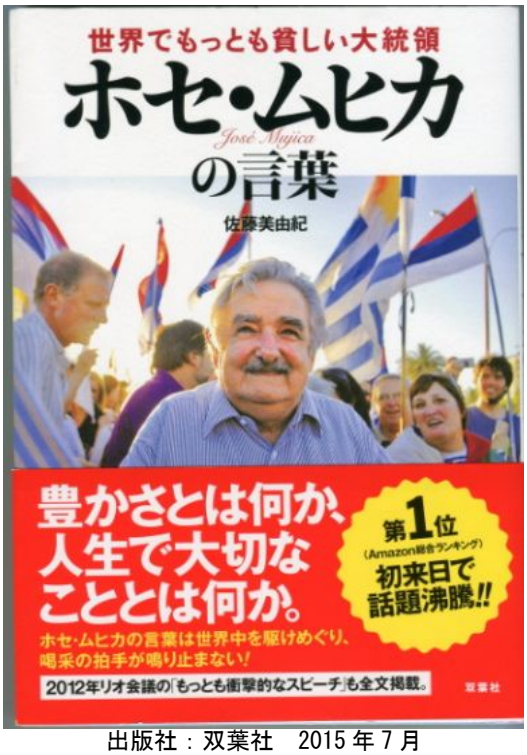
・（各国首脳が）話されていたことは「持続可能な発展と世界の貧困をなくすこと」でした。それは現在の裕福な国々の発展と消費モデルを真似することでしょうか。質問をさせてください。ドイツ人が一世帯で持つ車と同じ数の車をインド人が持てば世界はどうなるのでしょうか。西洋の裕福社会が持つ傲慢な消費を、世界の 70～80 億の人ができるとおもいますか。そんな原料がこの地球にあるのでしょうか。

・我々の前に立つ巨大な危機問題は、環境危機ではありません。政治的な危機問題なのです。

・貧乏な人とは、少ししか物を持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことです。

・発展は幸福を阻害するものであってはいけないのです。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。

・環境のために闘うのであれば、人類の幸福こそが環境の一番大切な要素であることを覚えておかなくてはなりません。



出版社：双葉社　2015 年 7 月

この演説の紹介につづいて本論に入りムヒカ氏の哲学が語られています。それは**「物であふれることが自由なのではなく、時間であふれることこそが自由だ」**という考えです。そのために次の章では彼が政府と闘い 13 年間も投獄されたいきさつが述べられています。最後の章で彼が大統領になっておこなった哲学の具現化が書かれています。

感銘を受けながら一気に読んでしまえる一冊です。

ウルガイ東方共和国

東北にブラジル、西にアルゼンチンに隣接する。人口約 340 万人、面積 17.6 平方ｋｍ（日本の約半分）。建国後南米のスイスを目指した歴史がある。ホセ・ムヒカは 2005 年親米保守を破った中道左派のバスケス大統領の跡を引き継ぎ 2010 年 3 月から 2015 年 3 月まで大統領を勤めた。現在は再びバスケスが大統領を勤める。大統領任期は 5 年で継続して再任できない。生活水準は安定し、政治や労働の自由度は南米一の自由を保つ。（文責　会報委員　松岡）

変わりゆく吹田のまちなみ（13）
未来世代へどんなまちを残すのか～春日町と円山町の大型開発～

まちなみ委員　松岡要三

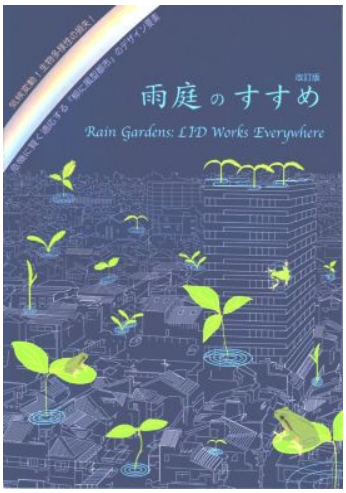
まだまだ変わりゆくのが吹田のまちである。表１に示す開発が進行中ですが、かつて緑豊かな竹林が地肌を見せている春日町(写真下左)、地元から注目を集めている円山町の官舎と日生グランド跡（写真下右）の戸建て住宅の開発事業、どんなまちになるのでしょう。

表１　進行中の戸建て住宅　開発事業構想

開発場所	開発事業者	面積(㎡)	戸数
①春日３丁目	コスモスイニシア	19,370	113
②円山町官舎跡	野村不動産	17,107	80
③日生ｸﾞﾗﾝﾄﾞ跡	大林新星和不動産	77,730	300

開発結果は事業者の取組み姿勢、担当者の力量、周辺住民の地域への想いなどによるところが多いと過去の事例からも推定されます。表１に示す開発事業者は優れたまちづくりに対する理念、環境取組みを掲げている会社で実績もある企業です。

市のホームページの事業構想経過書を見ると③の件では野鳥の調査や垂水の滝のために雨水浸透促進のためのボーリング調査まで地元の住民と協議されているので、次世代に誇れるまちづくりができるものと期待している。



吹田市では豪雨の対策に膨大な予算を使って下水道の整備をしていますが、昨年あるシンポジウムで、冊子**「雨庭のすすめ」**（京都学園大学森本幸弘教授監修）を入手しました。それによると「アスファルトや屋根などに降った雨を、一時的に貯留し、地下に浸透させるための植栽空間(雨庭)を設け、下水負荷の軽減、地下水涵養などを目的とした治水対策」で欧米ではかなり進んでいるそうです。是非この３件の開発では取り入れていただきたいものです。

②と③の構想図面を見て気になったことがあります。設計の前に現場に立ち良く見てその地の声を聞く、そしてその場で構想を検討すると尊敬する建築家から聞いた話ですが、今の計画はどうですか。机上の設計になっていませんか。

つれづれに　～あこがれのナンキンハゼ～

高野台　秋山　こずえ

昨年の秋、我が家の庭のシンボルだった「ナンキンハゼ」を伐採した。

この家に越してきて、３ｍたらずの木を斜面に植えた。将来、西日をさえぎってもらうつもりでいた。その木が、３年目から急に成長し、二階のガラス戸の西日をもさえぎってくれる程になった。

夏は木を通して風が入り、緑の茂る中、コゲラ、イカルなどの野鳥が休んで居る。また、ガラス戸に写る緑に、スズメがぶつかり脳しんとうを起こしている状態など、気持ちの良い楽しい環境を作ってくれていた。

ところが、ここ何年かの大型台風が接近するたびに、この木の揺れが尋常でなくなってきた。一昨年の台風で、ついに境界を越えて、お隣へ斜めに傾いてしまった。根元も少々みえはじめ、いつか倒れるのではないかとの心配が募るようになった。また、庭の雑草に手が回らず、名前のわからぬ虫がいろいろ生息し始めた。蛭（ひる）のような気持ちの悪いのもいる。嬉しいことは、ヤモリが毎年顔を見せてくれること。冬になると白い実がつき、鳥の餌場になったこと。大木、高木が持つ存在と、この木の元で起こる自然の営みを充分楽しませてくれた「ナンキンハゼ」。

ついに、この木と別れる決心をした。未練を断ち切るのは大変なことで、今でも子どもが出ていないかと探してしまう。

これから暫くの間、つれづれに雑記を書くことになりました。よろしくお願いします。

吹田市立博物館は今　平成 28 年度　春季特別展
“田園都市” 千里山　～大正時代の理想郷～

まちなみ委員　松岡要三（千里山まちづくり協議会会員）

4 月 23 日（土）に始まり 6 月 5 日（日）まで開催されます。最初の田園都市（Garden City）イギリスのレッチワースをモデルに開発された「千里山」と世界の田園都市やその背景などについて展示や多くの専門家による講演があります。

展示には 2013 年に「千里山今昔展」を開催した千里山まちづくり協議会も資料を提供しました。

イギリスで始まった「田園都市」は世界各地に広まったそうで、アルメニア（黒海とカスピ海の間にある小国）の首都エレバンもその一つ。そこの歴史博物館副館長がエレバンの都市計画を説明された。この特別展の図録も一部英文併記。吹田の千里山が国際的に知られる一歩にと思う。

千里山に関心の方は是非吹博へ、そして図録も。

＜現地見学会に参加して＞

5 月 22 日（日）五月女学芸員の解説で、参加者 30 名は駅から第一噴水、岡田家住宅、千里山会館、千里寺を巡り田園都市千里山を体感しました。

今は無い、噴水・テニスコート・浴場・遊園地跡も歩きました。住宅地の周辺に広がっていた緑地（グリーンベルト）が今も僅かに残る景観が印象的でした。（まちなみ委員 井上衣子）

古い図面をかざしてモダンな洋館を説明する五月女学芸員

夏季展示「まもる自然・つくる環境Ⅲ」開催予告
どっちがどっち！？　－ちかくの自然をよく見てみよう－

理事　金指　弘（夏季展示実行委員会　副委員長）

今年の吹田市立博物館「夏季展示」は 7 月 16 日(土)～8 月 24 日(水)の予定で開催します。

夏休み中のこの「夏季展示」は、公募に応じた市民で構成する「夏季展示実行委員会」が中心になって展示やイベントなどを企画・運営しているものです。

今年の展示テーマ『まもる自然・つくる環境Ⅲ』、展示タイトルを「どっちがどっち！？」として、自然界の似たものをクイズ形式で展示する予定で企画し準備を進めています。また、イベントも盛りだくさんで楽しいイベントがいっぱいです。

子どもたちが、楽しみながら身近な自然環境に目を向けるように企画をしていますので、子どもたちを連れて参加してください。

当会の「すいた市民環境会議」も『ダンゴムシレース』（7/17(日)、8/9(火) 各午前と午後の 2 回）、紫金山公園観察会（8/18(木) 午前）、『森のクラフト』（8/3(水) 午前・午後の 2 回）のイベントを企画していますので、ご来場をお待ちしています。　（注）企画中ですので日程変更の可能性あり

紫金山ポップスオーケストラ＠オッペンばら園

まちなみ委員　岡崎　強一

5 月 12 日(木)～18 日(水)、オッペン化粧品本社バラ園(吹田市岸部中)が一般公開されました。15 日(土)には紫金山ポップスオーケストラの演奏会もあり、素晴らしい演奏と約 5,500 本 320 種のバラを楽しみました。

第 17 回　通常総会のご案内

日　時　　2016年6月18日(土)　14時～16時30分(懇親会 17 時～19 時 30 分頃まで)
場　所　　千里市民センター多目的ホール
　　　　（千里ニュータウンプラザ8階）　　阪急南千里駅隣

第１部　議案審議
第２部　講　　演：「フューチヤーデザイン」(15 時 15 分～16時30分)
　　　　講　師：　　原　圭史郎　大阪大学大学院工学研究科　准教授
☆総会終了後、「クリスタルホテル4F レストラン」に場所を移して、懇親会をおこないます。
　会費　3,500 円(要予約)

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

・会員の方には**「総会資料」**と**「総会出欠返信はがき（裏面はアンケート)」**を同封しています。**返信はがきは 6 月 12 日(日)必着**でお願いします。
・問合せ先：事務局　中村小夜子　TEL 090-8375-0647　FAX 06-6386-9491

コミ亭居酒屋～「大人のしゃべり場」 あなたも覗いてみませんか

NPO 法人市民ネットすいた理事長　長谷川美津代

JR 吹田駅すぐの栄通り商店会ファミリーマートは、昨年 11 月 30 日にオープンしました。コンビニ店舗２階にイートインスペースが４０席もあります。その席を、団体登録し、利用日を連絡すればお席をリザーブできるのです。もちろん営利目的の使用はできませんが、現在３０団体ほどが登録し会議や教室に利用しています。そんな中、**「コミ亭居酒屋」**は、**毎月第４月曜日の午後７時**から開催しています。

誰でも参加でき、予約も要りません。１階店舗で自分の食べたい物、飲みたいお酒でもビールでもお茶でも、ご自由にマイ財布よりご購入頂き２階へどうぞ。 そう、ただみんなで集まって、わいわいと飲食しながらおしゃべりする 「大人のしゃべり場」です。 進行係がいて、皆さんの自己紹介や市民活動に関する話が多く取り上げられます。参加者が色々な活動をしているので、その PR だったり、相談だったり、何かをしたい若者の参加もあり、緩やかに人が繋がる場になっています。

アジェンダ 21 すいた　総会と講演のご案内

・日時：2016 年 7 月 9 日(土)
・場所：千里山コミセン多目的ホール
　　（千里山駅前東 商業施設 BiVi 3F)
総会：13:00～14:00　(会員のみ)
講演：14:30～15:30　(会員外も参加可)
　講師：動物写真家　小原　玲さん
　演題：「流氷からの伝言～
　　　アザラシの赤ちゃんと地球温暖化」

＊すいた市民環境会議は団体として「アジェンダ21すいた」に参加しています。
＊講演は小原 玲さんの取材で得た普段なかなか見ることのできない貴重な映像と素晴らしいお話です。お勧めします。
＊問合せ先:事務局
　小田信子　TEL:090-9091-3863
　FAX:06-6319-0630

＜会報委員会より＞
・幅広く会員からの情報提供(原稿)を求めています。身近な話題をお寄せ下さい。
　また、取材・編集・印刷に協力願える方を募集しています。(松岡要三　090-6974-1058)